

丸山湿原群保全の会会報

(第 201 号)

発行日：2024 年 (R6) 4 月 17 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:maruyamashitugengun@gmail.com

戦争は最大の環境破壊と差別を生み出します！



保全の会 HP・blog

新年度を迎えました。新しい環境、新しい出会いにワクワクしつつもストレスの多い時期かと思えます。十分ご自愛ください。もちろん変化のない方も…

百花繚乱の季節もやってきました。毎年「花が咲くのが遅い」とか、「だんだん早くなってきている」とか不安なことばかり言ってきましたが…今年度はやめ！「梅」「桃」「桜」「田虫葉」「躑躅」もみんな同じ時期に爆発的に咲き出したと、ただただ感動の日々です。昨日は「田部早苗」や「細身越年蜻蛉」にも出会いました。「青大将」もお目覚め。

花が咲いたら「きれいだな〜!」、蜻蛉が出てきたら「あつトンボ!」、越冬蝶が飛び出したら「よくぞ厳しい冬を乗り切った!」と、時々感動し涙を流せたらと思っています。

昨年妙に心配した「ツバメ」も今年は普通にやってきました。「ツバメ見てないな〜」と心配している人もいましたが、結局「主観」的な感覚なのかもしれません。データの蓄積がないのも一因ですが…

なるようになると思ひ、今の状況を楽しみましょう！「♪これが〜日本だ〜♪私の国だ〜♪」と相当古い歌を思い出してしまいました。さて、今日は何に感動し涙しましょうか…

(今住 4 月 16 日作成)

定期活動 ★3 月 24 日 (日) 作業予定日ですが、少雨のため観察会に・・・5 名で活動

昨年度最後の活動日です。本来は作業日。残った又マガヤを汗まみれ(年によりますが…)になりながら刈り取り、運び、タムシバを眺めながら頑張る日です。前日から雨予報でしたが、前回セトウチサンショウウオ(瀬戸内山椒魚)の卵囊が第 1 湿原で見つからなかったのが悔しく(そういう問題ではないのですが…)リベンジを！と観察会として実施しました。

一昨年は 3 月末に第 4 湿原でおびたしい？数の卵囊を確認。ひょっとして第 1 湿原で足の踏み場もないほどの卵囊が見つかるのではないかと目論んでいました。反面「やっぱり無かったらどうしよう」となんの意味も無い期待と不安を抱きつつ…。雨に集まったもの好きは 5 名。「今日は見つけてやる!」と鼻息も荒い。ただ、ご近所さん(湿原)からの情報は「今年は少ない」「無精卵らしきものが多い」と、ため息交じりのものばかり。これもなんの意味も無い情報なのかもしれません…いざ一直線に湿原へ!



さあ探すぞ！目は血走っている？

一応、第 3 湿原(前回約 4 対?ほど確認)も。こちらは前回確認した卵囊もすでに見当たらず、無事ハッチアウトしたのと思われます。その後の産卵は???

気を取り直し、禁断の第1湿原に足を踏み入れます。ウジャウジャあれば踏みつづしかねないし慎重に慎重に。

「うん?…」特に気を使う必要は無いようです。では、と「血まなこ」になって探します。「今住さんを卵囊〇で帰すわけにはいかない」。どっかのオリンピック水泳の話のようです。(嘘ですが…) なんでや?

「血まなこ」が功を奏したのか、1つ目が見つかりました。かなり「上手=北側」です。1つ見つかりと目が慣れてきて次々と。土囊で作った止水部にも産んでいました。

当初、新しい環境には産まないと思っていましたが、アカガエル類・セトウチサンショウウオも産卵したことになります。水深が比較的深い所(でもシルトが溜まってきてるかな?)での産卵。別の個体ではヌマガヤの株元に半分卵囊が露出しているようなものも。

水が無くなれば幼生は生きていけない…せめて6月ぐら



何対あるのか不明



ヌマガヤのそばで半分露出している卵囊

たらあかんけど。)ただ、最近思うのですが、確かに「無精卵」と思われる卵を丸山以外でも見かけます。これもなぜ?「西谷の森公園」からも同じ情報。個人の田んぼからも…

想像! オスの数が減っているのでは。今回の卵囊や最近見つけた卵囊は3対とかが同じところに繋がっています。当たり前なのか?セトウチサンショウウオは先にオスが水辺に入り、その後メスがやってくる。メスは卵を産むと山へ帰っていく。オスはとどまり次のメスを待つ。同じところで3頭のメスに出会うと同じところに3対の房状の卵囊ができる。4頭と出会うと4対。オスの数が多いと房状の卵囊は少なくなるのでは?と妄想に近い想像をしています。最終、精子の不足で無精卵に。1つの卵囊の中にも無精卵が見つかります。どうでしょうか?どなたかエビデンスをつけてくださいな。

オオサンショウウオは「ヌシ」と呼ばれる強いオスが巣穴を守りメスを呼び込むそうです。その



「あつたで〜」とのんびりした掛け声



ほとんどシルトの中の卵囊

いまで水深は必要かと。足が出てきたら何とかなる?成長過程の水条件はあまり聞いたことがありません。どなたかご存知でしょうか?えら呼吸はどの程度の「水」で可能?溶存酸素(DO?)がどのくらいあれば?といっても湿地のシルト内は??? ばかりになります。両生類のえらは特別?皮膚呼吸もしている?肺の発達状況にもよる?目が血まなこから、血走ってきます。考えまい…考えまい…知ったら面白いでしょうが、妙な救出劇が始まりかねない。賛否両論になりそう。人工物の場所での産卵は救出が必要?自然環境下では自然に任せる?「生態保全学」の先生方どうよ?種の維持ができない状況になったら保護でしょうね。間に合わなくなる前に。トキやコウノトリの轍を踏んではいけません。最も大事なものは環境だと思いますが…。

話を戻します。結局発見した卵囊は6対。まだしばらく産卵は続く?様です。踏みつづさないように気を付けましょう。(入っ



無精卵と思われる卵 奥には発生したのもの

間、別のオスは完全シャットアウト。巣穴をめぐる攻防も凄まじいものだとか。(田口博士談)ところが、巣穴にメスが入るとどんな雄もウェルカムだそうで、「どないなってんねん」という感じだそうです。メスが「攻撃能力撃退フェロモン？」を出すと考えられているようです。となると、1頭のメスの卵に多様性が生まれる。うまくできています。

セトウチサンショウウオのような「止水性小型サンショウウオ」の場合は？そして本当に雄の数が減っているのか？勝手な想像をどなたか裏付けてください。すでにわかっていたりして…環境ホルモンというのも一時騒ぎになっていましたがどうなのでしょう。

とにかく今年も第1湿原で卵を確認できたことは安心要素です。個体群としてどれだけの卵嚢が確認できれば安心なのか？50以下は危険という資料をどこかで見たような…個体群の範囲もよく分からないのですが…どなたか教えてください。とにかく湿地の減少がすべての要因。皆さんジメジメした所は嫌いですから。



ヒサカキ 雄花 雄蕊が見える

卵についてはここまで。寒く感じた3月ですが確実に季節は春に移ってきています。最初に感じるのはヒサカキ(姫榊・枹 他にも)の匂いです。雨のせいかこの日はあまりに匂いませんでしたが、雄株・雌株どちらも順調に開花していました。かわいいし、町では「仏壇・神棚」両方に使えます。田舎では完全NG。かと思っていたら、地方によるようです。小さな花をよく観察すると、雄蕊がたくさんあるものと柱頭が発達しているものがあり、見分けることができます。大変勢力を伸ばしている木本。目の敵にしていますが除伐はなかなか進まない。というよりあまりやる気が出ない？あかんがな。よし！今年度は…



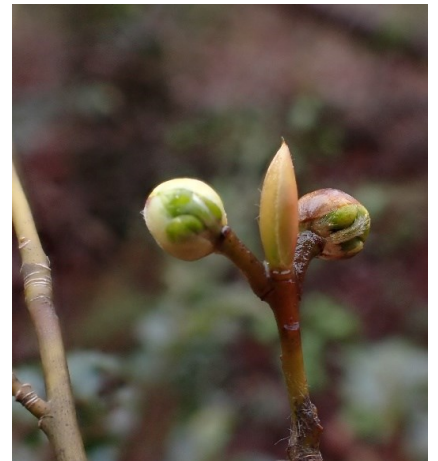
ヒサカキ 雌花 柱頭が発達

咲きかけはクロモジ(黒文字)。一部開花しているところもありました。クスノキ科らしくいつも爽やかな香りです。クロモジ茶、和菓子の高級爪楊枝でも有名。抗菌作用があり、蒸留してハーブウォーターとしても使われるそうです。昔は歯ブラシとしても使っていたのではという噂もあります。今、結構話題になっている木だとか。知らんけど。次回は花を見たい。

ギフチョウの時期が近付いているということで、帰りがけにヒメカンアオイ(姫寒葵)を。花が咲いています。半分埋まったように…地味や…。花を咲かせるのにも数年かかるそう。が、ギフチョウはカンアオイ類の葉の裏に卵を産み、幼虫は葉を食べる。地面にへばりつくような植物。どうやって見つける？ひょっとしたらこの地味な花の香りが関係している？しかし食べはするけど受粉者(ポリネーター)ではないと思いますが…ヒメカンアオイ、損ばかりや！なんかその裏に作戦があるのでしょうか？自然は不思議。花期も少しギフチョウより早いのか？

今年もギフチョウが沢山見られますように。そのためにはヒメカンアオイがたくさんなければ…アリがポリネーター？

ちなみにヒメカンアオイには毒があり、一応シカには食べられないことになっています。以前にも書きました。毒は薬。「咳止め」「痰切り」の生薬としても使われたとか。へ～！



クロモジの花 蕾



ヒメカンアオイの葉と花

定期活動 ★4月13日(土) 基礎調査 ゴミ拾い 11名で活動(オブザーバー2名含む)

目的	市内	市外
丸山湿原	21	13
登山・ハイキング	45	59
散歩	10	7

来場者数計 155人
(竹筒ポスト集計)

場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
入口	10:00	21.0℃		
第3湿原	10:40	【18.8】	29.0 μS/cm	6.3
視点場	10:55	26.2℃	20.4 μS/cm	6.4
第1湿原	11:10	【22.0℃】	24.0 μS/cm	6.4
第2湿原	11:43	【19.6℃】	24.8 μS/cm	6.2

前회가年度最終。今回は年度初。当たり前ですが何も変化がないのも、いいのか悪いのか。皆さん、心の中では新たなる決意を秘めておられることと思います。私はというと「田んぼが始まる」と、喜びと身体の衰えの間に身を焦がしていました。関係あらへんがな！すみません…

さて、一気に春爛漫。百花繚乱という言葉がぴったりです。しかしなぜか**タムシバ(田虫葉)**は

咲いたかと思えば終わっていました。(裏年か?) その分、桜(ソメイヨシノ)は長かった? ような…そう言っている人が多かった。その分がどの分かも不明。

駐車場には**ウリカエデ(瓜楓)**の花がすだれのように咲いていました。今年もまたタケコプターのような種が見られそうです。この木は雌雄異株とされていますが、いろいろあるみたいです。毎年種をつけている木だと思うのですが、よく見ると雄蕊が発達しています。うん? どうなんだ? 調べると、雌雄同株や性転換もあるそう。いつもの木と見間違えてるのか? 経過を観察しておきましょう。やばい時は作戦変更する木? カエデの仲間にはちょくちょくあるそう。凄いね。

道を進むと山際に、珍しくも無いですが**タチツボスミレ(立坪菫)**が咲いていました。**ニョイスミレ(如意菫)**や**シハイスミレ(紫背菫)**も。とてもかわいい。

竹筒付近、**ツクバキンモンソウ(筑波金紋草)**があるはず。あるべきところにちゃんと咲いていました。**キランソウ(金瘡小草)**も。いつもの「地獄の釜の蓋・医者殺し」です。どんな薬になるのでしょうか。万能薬ができるらしい。まるで「葛根湯」? お粗末でした。

この場所で昨年出ず、今年も出ないかと思っていた**ツチアケビ(土木通)**がホワイトアスパラに種変換して出てきました。好きじゃないけど、よかった。ちょっと好きになったかも…さて、花を咲かせるか? アスパラではないよ!

湿原は**モウセンゴケ(毛氈苔)**、**イシモチソウ(石持草)**が活動開始。さすが虫の活動とタイミングを合わせているかのようです。**ショウジョウバカマ(猩々袴)**も終盤。**トリガタハンショウツル(鳥形半鐘蔓)**は今日ぐらい咲いているでしょうか?



ウリカエデ 雄蕊が発達しているような?



タチツボスミレ



ツチアケビ新芽



ツクバキンモンソウ



キランソウ どこにでもあがる?



お目覚め モウセンゴケ

次回活動日 4月28日(日) 5月11日(土) 26日(日) 6月8日(土) 総会? 23日(日)